

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成へ。

- 1 学ぶ力をつける……生徒の学ぶ意欲を向上させて確かな学力を身につける。
- 2 人間力をつける……知・徳・体のバランスのとれた人間性を育み、人間力をつける。
- 3 地域から信頼される学校をつくり、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
- 4 学校の組織力の向上と活性化

## 2 中期的目標

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成のために

1. 学ぶ力をつける 次期学習指導要領を見据えて、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。
  - (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ確かな学力を身につけるために、正課授業の集中度を高める。アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等で、生徒の授業へのさらなる意識向上を図り、授業満足度の向上と授業力の向上（「桜塚教科スタンダード」の実現）をめざす。
  - (2) 朝学（総合基礎）の充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。家庭学習習慣の定着。放課後や長期休業中の学習機会を確保・拡大していく。（自習室、講習）
  - (3) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [GSC] とグローバルスタディサイエンスコース [GSS]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。国立大学や「関関同立」など難関私大への進路希望の実現に寄与し、国立大学 50 名以上「関関同立」250 名以上の合格を目標とする。
  - (4) ICT 機器である電子黒板とタブレット型端末を有効に活用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力（特に、英語を中心としたコミュニケーション能力）の向上に資する。また、外部講師に「希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。  
※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の 75% を更に向上させ今年度には 80% にし、平成 31 年度には 80% 以上を維持する。
2. 人間力をつける
  - (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。
  - (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切にする」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的にを行い生徒相談機能を高める。
  - (3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
  - (4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
  - (5) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし更に有効有意な関係を構築する。  
※ 学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。（進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5% 上昇をめざす）
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
  - (1) 創立 80 周年を生かし、OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。
  - (2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を進展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
  - (3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。  
※ 学校教育自己診断において生徒の自己評価の低かった地域活動をさらに周知し、生徒の力に替え、地域の信頼の一層の獲得を図る。現在の 70% を維持する。
4. グローバルリーダーの育成
  - (1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
  - (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。  
※ 今年度以降も英語圏への海外語学研修を継続して実施し、アジア圏への異文化研修も積極的に実施する。修学旅行も可能な限り海外に行くことをすすめる。
5. PDCA サイクルにより学校の組織力の向上と活性化
  - (1) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
  - (2) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。
  - (3) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
  - (4) ノークラブデー、全庁一斉休日の実施。残業時間月平均 80 時間未満の厳守。
  - (5) ミドルリーダーの育成。経験の浅い教職員への OJT 等の充実を図る。
6. 個人情報等の適正管理
  - (1) 個人情報等の適正管理をめざす
  - (2) 備品等の適正管理をめざす

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【総括】</b> 保護者、生徒とも全部の質問項目で肯定的回答が否定的回答を上回った。また、学校に対する総体的印象を聞く質問である「子どもは学校に行くのを楽しみにしている（保護者）」は 89%、「桜塚高校は楽しい（生徒）」は 90% といずれも高い値を維持した。</p> <p><b>【学習指導】</b> ・「授業はわかりやすい（生徒）」が 60%、「子どもは授業がわかりやすいと言っている（保護者）」が 61% で、昨年度より共に約 15% 低かった。「アクティブラーニング型の学習指導を取り入れている（教職員）」は 85% となり、昨年度より 10% 高く、生徒の授業理解のため教員は努力を重ねているが、生徒の評価と乖離がある。スマホやタブレットの活用方法に教員自身が習熟し、「主体的で対話的な深い学び」を実現する授業をプロデュースする必要がある。 ・今年度も 5 月と 11 月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業見学や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来ることがある」は 76% であった。また授業アンケート結果を踏まえた教科・学年別の協議を行い、授業における「桜塚スタンダード」のブラッシュアップを図った。 ・「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」は 90% であった。ICT 機器の活用に習熟した教員の授業見学を組織的に企画し ICT 機器の使用に不慣れな教員を参加させたり、OJT のなかで教えあったりすることで、100% をめざす。</p>	<p><b>【第 1 回（6 月 30 日）】</b> ○平成 29 年度学校経営計画について ・若い先生には特に積極的に ICT 機器の活用をしてもらいたい。 ・アクティブラーニングを授業で実践している先生の割合が 7 割を超えていることを評価する。 ・全定自治会による共同の取り組みを評価する。今後より一層進めてもらいたい。 ○生徒の状況に対して ・軽音楽部、ダンス部、箏曲部などによる地域の行事への協力に感謝する。 ・国立大学への進学者数の増加を期待する。 ・キャリア教育の一層の充実を図られたい。 ・経済的困難をかかえる生徒への支援について PTA と連携して取り組んでいただきたい。</p> <p><b>【第 2 回（11 月 21 日）】</b> ○生徒の状況視察について（定時制生徒登校・全日制自習室及び桜塾） ・定時制との関係が非常に良好になっていることを高く評価する。昔はそれぞれの時間帯に入っていくべきではないという雰囲気があったことを考えると感無量である。 ・「自習室」及び「桜塾」の取組を高く評価する。かつての生徒は学校で自習できないので近隣の豊中市施設「くらし館」で自習していた。</p>

<p><b>【生徒指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている（生徒）」の肯定的回答は70%であり、生徒は自主的に規律を遵守しようとする意識が高いといえるが、さらなる意識の向上を図る必要がある。</li> <li>・「桜塚高校の生徒指導の方針には共感できる（保護者）」は81%で、生徒が「厳しい」と感じる指導も、保護者の視点においては必要であると理解を得ている。</li> </ul> <p><b>【進路指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来の進路や生き方について考える機会がある（生徒）」は75%、「桜塚高校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている（保護者）」が79%であった。大学受験だけでなく、その先の人生も含めた「キャリア教育」の指導を充実させる必要がある。</li> </ul> <p><b>【地域連携等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流について、肯定的評価は生徒65%、保護者82%、教職員95%であった。生徒の意識と保護者、教職員の意識に差が出た。自分の学校が地域へ貢献し、被災地を支援することは生徒の自尊感情を高めることにつながるため、全校生徒が事業や交流に関わるプログラムを設定するとともに、それらの活動を他の生徒にも伝えて、学校全体で「地域とつながり被災地とともに歩む学校」とする意識を持つ必要がある。</li> </ul> <p><b>【情報提供】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している（保護者）」は77%、「桜塚高校の『ケータイ連絡網』によるメール発信を知っている」は79%、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている（教職員）」は92%であった。概ね適切に情報提供を行っているが、進路の情報提供の頻度や方法についてはさらなる工夫が必要である。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が79%、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が97%であり、教職員は協働して業務を進めている。</li> <li>・「PDCAサイクルによる学校経営を推進している」は56%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は62%であり、共に十分とはいえない。</li> <li>・「教職員の服務規律への自覚が高い」は92%であり、服務規律に対する意識は高いといえる。</li> </ul>	<p>○学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「桜塚授業スタンダード」の策定を評価する。宣言の通り教員はプロフェッショナルとしての自覚と誇りを持ち、「魅力的な授業」「わかる授業」を行うよう期待する。</li> <li>・個人情報の適正な管理のために「調査管理票」を用いて、責任の所在を明確にすると共に、その交代の時に確実な引継ぎができるような体制の構築がなされたことを評価する。遺漏なくすすめてもらいたい。</li> <li>・「あいさつ運動」は良い取り組みだが、生徒相互、教員と生徒だけでなく、外部の来校者にももれなく挨拶がなされるようになれば、なお良い。</li> <li>・WiFi環境を整備し、生徒のスマホを朝学や授業で活用すること、そのツールの一つとして「Classi」を考えていることを承知する。</li> <li>・「ノークラブデー」の確実な実施を行うと共に、教員の長時間労働の縮減に努めていただきたい。また外部人材の積極的活用を図ると共に行きすぎた指導を行うことのないよう監督をしていただきたい。</li> <li>・来年度有料で外部講師による講習を行うことについては、個人で予備校に通うより安価であるので制度の運用に関しPTAとして支援する。</li> </ul> <p><b>【第3回（1月31日）】</b></p> <p>○平成29年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5大学との連携が準備できたことは、素晴らしい取組である。他、よい実践ができたことと評価する。</li> </ul> <p>○平成30年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ活用を推進してほしい。各教科で活用法を協議してより生徒のために活用して欲しい。経済的に持てない生徒への配慮をしてほしい。活用についてのルールをきちんと指導してほしい。キャリアデザインに役立つ講演会等を計画する</li> <li>・全定併置校の特色を生かし、教員がチームで取組む計画をすすめてほしい</li> </ul> <p>○平成30年度よりの学校運営協議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者（全定校長経験した大学教授）、豊中3中4中、PTA保護者会、尚和会、振興会、地域協議会、地域代表岡町商店街等</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	<p>(1) 授業力の向上、観点別評価 桜塚教科スタンダードの実施</p> <p>(2) 総合基礎（朝学）の充実。家庭学習習慣の育成と定着 自習室・講習の充実</p> <p>(3) 専門コース制の活用・充実</p> <p>(4) ICT機器等の有効活用</p>	<p>(1) 「授業力向上等検討委員会」で、研究授業（電子黒板等 ICT 機器を取り入れた研究授業も含む）や教員相互の授業見学等の計画実施。・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。各教科等でも改善策等を協議する。・「桜塚授業スタンダード」を内規にも位置づけ、指導方針を毎年確認し、指導の徹底を図る。</p> <p>(2) 実施後3年間の結果に基づき、更に学校をあげて組織的に取り組み、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。1年次に勉強合宿を実施するとともに各教科の放課後講習等を充実させる。・「学習確認カード」を作成し、担任とクラブ顧問協同による自宅学習習慣の育成と定着に学校あげて取り組む）・夏季や冬季の長期休業時にも講習を組織的に計画し実施する。1学期終了段階で各教科のやり直し補講等を行い、2学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。原級留置者数0をめざす。</p> <p>(3) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。</p> <p>(4) 電子黒板やタブレット型端末等 ICT 機器を有効に使用することで、「わかりやすい授業」を行い生徒の学力の向上に資する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度平均で3%向上（平成28年度72.2%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの1回目と2回目の比較において平均での上昇</li> </ul> <p>(2) 担任とクラブ顧問協同による自宅学習習慣の育成と定着に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅学習をそれぞれの学年単位で設定した目標時間を達成する。</li> </ul> <p>(3) ・センター試験において各科目とも全国平均との比較での向上</p> <p>(4) 英検・漢検等の資格取得者数増加と英語能力判定テストの成果向上。授業アンケートの教材活用の項目の昨年度比向上</p>	<p>(1) 教科スタンダードの作成、授業相互見学、教科別授業研究協議などを実施し、教科内の話し合い、教材の工夫精選などの項目で教職員の自己評価は昨年比10ポイント前後上昇し、アクティブラーニングは85%が取り入れている（昨年比10ポイントアップ）。一方で、生徒の授業満足度は逆に12ポイント低下し6割にとどまり、授業が学力向上に役立つと回答した生徒も8ポイント低下。この要因についてはさらに詳しい分析が必要と考える。(○)</p> <p>(2) 一部教員の実施にとどまった。来年度はさらに拡充したい。(△)</p> <p>(3) 国公立志願者が64名（昨年比1.6倍）でその42%がコース生徒であった。文系に関しては900点満点での平均点が初めて全国平均を上回った。(◎)</p> <p>(4) ICT機器を活用する教員は6ポイント増えて92%に達しているが、生徒にとっての「わかりやすい授業」には必ずしもなっていない。(○)</p>
2 人 間 力 を つ け る	<p>(1) 「あいさつ運動」の推進、遅刻数の減少</p> <p>(2) 教育相談体制の充実</p> <p>(3) 地域貢献・国際交流活動等への参画</p> <p>(4) 部活動の充実</p> <p>(5) 定時制との互惠関係の充実</p>	<p>(1) 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。・時間を順守することの大切さを再確認する。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、生徒相談機能を高める。・きめ細かく丁寧にカウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。</p> <p>(3) 地域貢献、国際交流等の実施</p> <p>(4) 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p> <p>(5) 教職員が協力することで同じ施設を共有する仲間意識や互いを思いやりあう意識を養っていく。・全定相互の授業見学や共同の消火訓練等の実施。自治会活動の全定連携も視野に入れ、全定生徒の交流行事等も検討する。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率70%以上を維持（28年度73%）前年度遅刻数の1割減</p> <p>(2) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均4%向上（平成28年度56%）</p> <p>(3) 年間3回以上の実施</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断関連項目90%以上を維持（28年度98%）</p> <p>(5) 定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答50%以上を維持。（平成28年度51%）</p>	<p>(1) 11月に1週間、あいさつ運動を兼ねた「遅刻防止週間」キャンペーンを風紀厚生委員の生徒とともに実施。2月にも行う予定。遅刻者数が12月末までで前年度より-17.6%であり、目標の1割減を達成。(◎)</p> <p>(2) 教育相談委員会を中心に組織的に行ってきた。生徒の自己診断結果は3%向上(○)</p> <p>(3) 韓国、中国、スリランカ、インドネシア高校生との交流を行った。(◎)</p> <p>(4) 軽音楽部とダンス部が全国大会出場。教員の自己診断結果100%(◎)</p> <p>(5) 定時制の授業を全日制の教員が見学した。全定共同の消火訓練は実施済み。全定の自治会が七夕やハロウィンの飾り付けを一緒に交流した。教員の自己診断結果は65%となり昨年度に比して+14%と大幅に上昇(◎)</p>

## 府立桜塚高等学校

3 地域連携・広報	<p>(1) 豊中市各機関との連携、オール桜塚による支援、大学等との連携</p> <p>(2) 岩手県大槌高校「さくら協定」</p> <p>(3) 生徒も広報に参画、中学校等訪問、学校説明会実施</p>	<p>(1) 豊中市等との連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。・創立 80 周年事業として、生徒、OB, 教員が一体となった地域連携を進める（例えば、枝垂れ桜の一般公開）。大阪大学、関西大学との連携活動の継続</p> <p>(2) 相互訪問の実施</p> <p>(3) 生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。</p>	<p>(1) 満足度 85%以上維持（平成 28 年度 90%以上）・肯定的回答 70%以上を維持（平成 28 年度 74.1%）キャリア教育と進路実現に繋げる</p> <p>(2) 年 1 回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明</p> <p>(3) WEB Page を月に 5 回以上更新する。学校説明会参加者数の増加。（平成 28 年 1500 人）</p>	<p>(1) 豊中市等との連携で、留学生受け入れや親学習等を実施した。しだれ桜の一般公開を今年も実施した。従来の阪大関大との連携に加え、外部講師招聘を通じ、他大学との連携も増やした。生徒アンケートによる満足度 86%、豊中市との連携に関する自己診断（生徒）結果は 65%（○）</p> <p>(2) 今年も豊中市主催の東北へのボランティアバスに参加した。大槌高校から本校へ大漁旗が贈られた。本校の 80 周年記念式典にも大槌高校の教員と生徒が出席した。（◎）</p> <p>(3) 月平均 6 回以上のペースで更新してきた。部活動のページも充実。生徒からの記事素材提供もあり。夏に全教員で近隣中学校を訪問し、本校の特色と入試の英語を C から B に変更したことを強調した。学校説明会はすでに 3 回実施。1,514 人の生徒・保護者が参加した。残る説明会は最終の 2/17 である。（◎）</p>
4 グローバルリーダーの育成	<p>(1) 国際交流、留学生等の受け入れ</p> <p>(2) 英語検定・TOEFL 等の資格取得</p>	<p>(1) 国際交流を積極的に推進し、英語圏への語学研修を引続き実施する。異文化研修や海外修学旅行をすすめる。長期・短期留学生の受け入れ。</p> <p>(2) 外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入。専門コース制の導入により英語と理数系科目の強化。</p>	<p>(1) 海外語学・異文化研修、海外修学旅行をすすめる。留学生受け入れ</p> <p>(2) 英検校内実施とともに英検準 2 級以上の資格取得数を平成 28 年度 334 名の維持</p>	<p>(1) アメリカ語学研修 (20 名) を今年度も実施。韓国・忠南外国語高校との相互交流実施 (3・5 月)、長期留学生 1 名、短期留学生 2 名の受け入れ、スリランカ、中国、インドネシア高校生との交流実施。台湾修学旅行では、400 名全員が、1 対 1 の交流を行った。（◎）</p> <p>(2) GSC の生徒対象にベルリッツの講師による特別授業を実施。この事業は平成 27 年度に獲得した学校経営推進費によるものである。来年度は、大学と連携して大学の教授や NET を派遣してもらい特別授業を依頼している。連携する大学は、武庫川女子大、梅花女子大、大阪女学院大、大阪教育大学、大手前大学の 5 大学。（◎）</p> <p>英検タイムスを発行し、生徒の意欲を喚起した。英検準 2 級以上の資格取得者数人 (265 人) (△)</p>
5 組織力の向上	<p>(1) 課題に対する基本的な方向性の確立</p> <p>(2) 内規等の整理・改善</p> <p>(3) 学び続ける組織的人材育成</p> <p>(4) ノークラブデー、全庁一斉退庁、残業時間</p> <p>(5) ミドルリーダー、経験の浅い教職員育成</p>	<p>(1) 学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する運営委員会をめざす。</p> <p>(2) 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善。</p> <p>(3) 分掌・委員会の活性化と時間短縮に努め、活動を活発に行う。そのために会議録を作成する。委員会は年間の会議開催計画を作成する。</p> <p>(4) ノークラブデー、全庁一斉退庁日の徹底。全職員残業時間月平均 80 時間未満</p> <p>(5) 校内研修の更なる充実を図り、日常的な OJT の推進に努める</p>	<p>(1) 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率 80%以上を維持。</p> <p>(2) 内規等の整理と改善の実施。</p> <p>(3) 分掌・委員会の時間記録。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率+5% (28 年度は 59.4%)</p> <p>(4) 全職員残業時間月平均 80 時間未満</p> <p>(5) 校内研修を実施し問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率+5% (28 年度は 52.5%)</p>	<p>(1) 教員に本校の強みと弱みをどう捉えているかアンケートを実施。その中にあった要望に応え、将来構想委員会を設置した。自己診断結果は 81% (◎)</p> <p>(2) 整理は完了。必要に応じ改善・変更をしていく。（○）</p> <p>(3) 職員会議の時間短縮のため、あらかじめ資料をひとまとめにしておき、会議の開始・終了が早くなった。自己診断結果は 59.9%。（○）</p> <p>(4) ノークラブデー、全庁一斉退庁日実施中。概ね守られている。職員残業時間月平均 80 時間未満は 1 人（管理職）が達成できなかったが概ね達成した。（○）</p> <p>(5) 校内研修を 6 回実施した。経験の浅い教職員には第 1 ブロック校長協会主催の「行って究！」など外部の研修を紹介した。教員向け自己診断関連項目肯定率は昨年比+12%と目標を上回った。（◎）</p>
6 適正管理	<p>(1) 個人情報等の適正管理</p> <p>(2) 備品等の適正管理</p>	<p>(1) 個人情報の漏えい、紛失、損傷等を防止するため、「大阪府教育委員会における個人情報の取扱い及び管理に関する要綱」等に準じて個人情報を適正に管理する</p> <p>(2) 備品等の適正管理のため、各室管理者による室内備品管理を実施する</p>	<p>(1) 個人情報の適正管理に関する研修を年 1 回以上実施する</p> <p>(2) 各室の備品等管理簿（配置図含む）を作成し、引き継げる体制を整える</p>	<p>(1) 各分掌で個人情報管理簿を作成し、事務室で管理する態勢を構築した。1/25 に研修も実施した。（◎）</p> <p>(2) 各室の備品管理簿を作成し、管理状況が確認済みであるとともに引継ぎ体制を整えた。（◎）</p>